

条例に記されている 当たり前前といえる社会が いつまでもあり続けてほしい

昨年八月に検討委員に選ばれ、条例づくりに関わりました。条例ができるまでに六回の検討会と、各地域や小・中・高校を回っての意見交換会を四十回ほど行いました。子どもたちからは「自分たちの育つ権利は保障されている」という声が、大人たちからは「条例を作る必要性が感じられない」という意見が出されました。

わたしは一昨年末で教師として子どもたちに長年接してきました。今の子どもたちは何でも手に入る、いつでも食べられるといった何不自由ない暮らしをしています。その反面、物ができるまでの過程や人の生死などに触れる機会が少なくなっています。知識はあるが経験がない。物の大切さや命の尊さは、積み重ねてきた経験の中にこそ感じられるものだと思います。

各学校では、農業体験や都市との交流など、さまざまな体験学習を実施しています。しかし、学校だけでは十分とはいえません。各家庭でも、野菜を作ったり、小動物を飼ったり、時には家族みんなで材料をそろえて食事を作ったりしてほしいと思います。

子どもは、わたしたち大人がつくった社会の影響を大きく受けます。平成十二年に「子どもの権利に関する条例」を制定した神奈川県川崎市では、いじめや虐待などの問題が多く、遠野とは異なる状況にあることを知りました。核家族化や地域との結びつきが薄れた都市化が進むと、子どもへの虐待や育児放棄などの問題が増えてくるといわれています。わらすっこ条例は「未来への警鐘」として、今だからこそ鳴らさなければならぬものと考えます。

「当たり前前」のこと。なぜ、あらためて条例化しなければならぬのか。この意見もありました。しかし、今の子どもたちが大人になつたとき、この「当たり前前」の社会が保たれているのでしょうか。県外でも同様に条例化の動きが進んでいます。本市でも虐待などの相談件数は増えてきています。

子どもは地域の宝です。子どもは子どもだけ別個に生きているわけではありません。わたしたち大人がつくった社会の中で生きています。親や教師だけが子どもを育てているわけではありません。地域や社会が育てています。地域全体が変わらなければ、子どもたち個々を教育したところでどうにもならないのです。わらすっこ条例の前文に、こんな言葉を入れました。「自分の権利について学び、

気づき、身につけていく中で、他の人の権利を大切にし、お互いの権利を尊重し合える」。そんな子どもに育ってほしいと願いを込め、わたしたちはこの条例を作りました。

この条例はすぐに何かを大きく変えるものではありません。今は知っているというだけで構わない。しかし、この流れを止めてはいけません。何年もの歳月をかけて、浸透させなければならぬのです。この条例を当たり前前と言え、今の遠野には、子どもを大切に思う人がたくさんいます。この当たり前前の社会を当たり前のまま残してあげることが、今のわたしたちの役目なのではないでしょうか。



遠野市わらすっこ条例検討会委員長

藤澤俊明さん

ふじさわ・としあき

子育て支援制度・施設を紹介

市は、保健、医療、保育や経済的支援など、子育て家族を応援するためのさまざまなサービスを行っています。その一部を紹介いたします。

市は下表のサービスのほか、児童館や児童クラブの設置、学力向上のための取り組み、地元旬の食材を使った食育、生徒たちの悩みを解決するための相談員配置など、さまざまな事業に取り組んでいます。本年度はさらに、達曽部児童クラブの整備、妊婦健診の無料化、障害のある児童の放課後見守り支援サービスの無料化、公園環境の整備などの事業に取り組みます。また、今後求められるサービスへの対応のため、「遠野市わらすっこ基金」による財源の確保にも努めていきます。

しかし、これだけでは市民が満足する子育て環境は実現できないと考えています。これからもより多くの市民の皆さんの意見に耳を傾け、事業の充実を図ります。ぜひ、ご意見・ご要望を子育て総合支援センター子育て総合支援室(☎5111内線28)までお寄せください。

サービス名	概要	対象	問い合わせ
乳幼児医療費助成	月に支払った医療費から入院の場合2,500円、通院の場合750円を差し引いた額を助成	小学校就学前までの人	市民課給付係(☎2111内線263)
妊産婦医療費助成		妊娠5カ月目から出産した月の翌月までの人	
小学生医療費助成	医療費の一部負担金の3分の1を助成	小学生を養育する人	
助産院ねっと・ゆりかご	妊婦一般健診3,000円 モバイル遠隔健診4,500円(4回まで無料)など	妊娠中の人	市健康福祉の里ねっと・ゆりかご(☎1103)
妊婦教室・両親学級	赤ちゃんを育てるための調理実習や入浴指導など	市内在住の妊婦とその家族	
妊産婦通院サポート	妊産婦定期健康診査の通院回数に応じて交通費を助成	産後1カ月健診受診までの妊産婦	
各種健診・予防接種	3カ月～3歳6カ月までの健診・健康相談のほか、法定予防接種の実施	生後3カ月以降の乳幼児など	市健康福祉の里福祉課母子保健係(☎5111内線12)
特定不妊治療費助成	体外受精および顕微授精に要した経費に対し助成	県特定不妊治療費助成金の交付決定を受けている人	
保育園	日中保育のほか、休日保育や朝・夜30分の延長保育も行っていきます [市内保育園] 遠野・神明・綾織・岩滝・附馬牛・松崎・白岩・土淵・青笹・上郷保育園、宮守・達曽部・鱒沢保育所	仕事、妊娠、病気や介護などの理由により家庭で保育できない0歳～5歳の乳幼児	市健康福祉の里福祉課児童家庭係(☎5111内線28)
公立幼稚園	宮守幼稚園、達曽部幼稚園、鱒沢幼稚園	3歳～5歳の幼児	
私立幼稚園	遠野聖光幼稚園(☎2150) 光の園幼稚園(☎3341)	3歳～5歳の幼児	
その他の保育施設	遠野ベビーホーム(☎2820) 白金ベビーホーム(☎3756)	2カ月～3歳の乳幼児	
窓口相談(妊産婦、子どもの発育など)	保健師が妊産婦さんやお子さんの発育などへの悩みにお応えします		市健康福祉の里福祉課母子保健係(☎5111内線12)
窓口相談(子育て、保育)	子育て支援センター(☎1187) もしもし育児相談(☎0192)		
奨学資金貸与	高校生 15,000円以内 大学生 40,000円以内	成績優秀でありながら経済的理由により修学が困難な人	市教育委員会事務局教務課(☎4412内線282)
児童手当	3歳未満 10,000円 3歳以上 第1子=5,000円、第2子=5,000円、第3子=10,000円	0歳～小学校	市民課給付係(☎2111内線263)
保育園・幼稚園の保育料軽減	基準保育料の2分の1を市が負担	利用者全員	市健康福祉の里福祉課児童家庭係(☎5111内線28)

◆取材を終えて
子どもに関する痛ましい事件が今日もテレビで報じられています。子育てに疲れ、悩む親は、しつこく称してわが子に体罰を与える。核家族などによる孤立化は、自己中心的な考え方を生み出し、思いやりの心や助け合いの意識を喪失させ、大きな事件へとつながっていくのではないのでしょうか。
少子化の理由には「時間に追われて忙しい」「出会いの場がない」などの理由もあります。しかし、こうした不安を抱えた社会では「子どもを持ちたいとは思えない」というのが本音かもしれません。少子化に歯止めをかけるためには、まず安心して子どもを育てることのできる社会づくりから。遠野には、子どもにやさしい人・自然・文化などがたくさんあります。生まれたばかりのわらすっこ条例を「当たり前前」と言える大人がいっぱいいます。わたしたちが今できることは、「当たり前前」の社会を次の子どもたちに残してあげること。そして、子育てに夢と希望を育てるような社会を築いていくことではないのでしょうか。

「特集 育てよう！
おらほのわらすっこ 終わり」